

# 大学による 倫理的消費（エシカル消費）の 普及啓発事業事例集



名古屋市

## はじめに

「買い物で世界を変える!」、これが倫理的消費(エシカル消費)のわかりやすいキャッチフレーズである。買い物をするとき、倫理観に基づき、環境負荷の少ない商品や開発途上国の生産者に適正な賃金や労働環境を保障する商品、地元の生産者や被災地の生産者がつくった商品、環境活動や社会福祉活動を応援する寄附付商品などを選択することは、環境問題や社会問題の改善に寄与する。このように、消費者が主体的に取り組む「人や社会、環境などに配慮した消費行動」が、倫理的消費(エシカル消費)であり、広義には、エコバッグ持参や食品ロス削減など、ライフスタイルをも含む概念である。

消費者庁では、平成29年4月、『『倫理的消費』調査研究会取りまとめ～あなたの消費が世界の未来を変える～』を公表し、「広く国民間での理解とその先の行動を期待する」としている。名古屋市においても倫理的消費(エシカル消費)を推進する様々な取り組みが展開され、その一環として、平成30年度から令和2年度の3年間、大学等への消費者教育・啓発委託事業のテーマに「倫理的消費(エシカル消費)」が掲げられた。大学等への委託事業とは、平成23年度以降継続されている市独自の取り組みである。この事業では、テーマについて学んだ学生たちが、名古屋市消費生活フェアへ出展したり、啓発用教材を作成したり、自ら講師となって教育現場で普及啓発を担うなど、学生主体の実践的な活動が行われている。

現在、国際社会が共有するSDGs(持続可能な開発目標)の12番目には「つくる責任 つかう責任」が挙げられ、エシカル消費は「つかう責任」に直結し、他の目標の達成にも貢献する行動として注目されている。本事例集には、10大学の学生たちによる個性あふれるエシカル消費の普及啓発活動が紹介されている。市の事業を通して、学び、自覚し、行動する機会を得た大学生たちの取り組みを総括するとともに、今後、彼らが創り上げる持続可能な未来に期待するものである。

令和3年3月

椋山女学園大学現代マネジメント学部  
教授 東 珠 実

## 目次

大学による倫理的消費(エシカル消費)の普及啓発事業について .....	5
学んではじめる倫理的消費～企業の価値共創(CSV)を中心として～ 愛知学院大学 経営学部 経営学科 .....	6
常備品、備蓄品を美味しく食べよう 愛知学泉大学 家政学部 .....	8
啓発教材の作成と教材使用に関するアンケート調査 金城学院大学 生活環境学部 生活マネジメント学科 .....	10
私が変わると世界が変わる～至学館エシカルプロジェクト～ 至学館大学 健康科学部 栄養科学科 .....	12
若い感性とリアルな教材で共感と行動を導く 椋山女学園大学 現代マネジメント学部 現代マネジメント学科 .....	14
「エシカル消費」啓発のためのゼミ活動 中京大学 法学部 法律学科 .....	16
学生主体の標準化教育 中部大学 経営情報学部 経営総合学科 .....	18
エコホテルを事例としたエシカル消費の研究と啓発 名古屋経済大学 経済学部 .....	20
エシカル教材の開発とエシカル消費の啓発実践 名古屋女子大学 家政学部 家政経済学科 .....	22
デポジロウの冒険-プラスチック容器のデポジット制提案 名古屋市立大学 人文社会学部 現代社会学科 .....	24
<b>【巻末資料】SDGsについて .....</b>	<b>26</b>

## 大学による倫理的消費(エシカル消費)の普及啓発事業について

### 事業の趣旨・目的

本事例集は、名古屋市が実施した「大学への倫理的消費(エシカル消費)の普及啓発事業委託」において、各大学に企画・実施していただいた実績をまとめたものです。

次代を担う若者自らが倫理的消費(エシカル消費)について知識を深め、関心を高める機会とするとともに、若者の視点やアイデアにより効果的な普及啓発を図ることを目的として、以下の事項を委託しました。

- 倫理的消費(エシカル消費)普及啓発にかかる企画立案  
学生がゼミ活動等を通じ、倫理的消費(エシカル消費)について学習するとともに、それを行動につなげる仕組みを検討する。
- 倫理的消費(エシカル消費)普及啓発に係る企画実施
  - ・ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校の児童生徒等に対し、授業を実施する
  - ・ 大学のイベント等において、大学生に対し啓発を実施する
  - ・ 大学のウェブサイトや新聞等による周知を行う
  - ・ イベント「名古屋市消費生活フェア」において、ブース展示またはステージ発表等を実施する
  - ・ 名古屋市消費生活センターウェブサイト等で研究成果や啓発実績を発表する 等
- 他大学との交流会への参加

### 事業の実施年度

名古屋市では、平成23年度以降、大学と連携した消費者教育・啓発事業をテーマを変えながら毎年度実施しています。本事例集では、「倫理的消費(エシカル消費)」をテーマとして委託した平成30年度～令和2年度実施の事業についてまとめました。

倫理的消費(エシカル消費)とは「**地域の活性化や雇用なども含む、人や社会、環境に配慮した消費行動**」<sup>(1)</sup>であり、「消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと」<sup>(2)</sup>をいいます。

出典 (1) 消費者庁：消費者基本計画（令和2年3月31日閣議決定）

(2) 消費者庁：エシカル消費とは（[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_education/public\\_awareness/ethical/about/](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/ethical/about/)）

# 学んではじめる倫理的消費 ～企業の価値共創 (CSV)を中心として～

愛知学院大学 経営学部 経営学科

関 千里ゼミ

## 事業の概要・目的

本事業においては「学んではじめる倫理的消費～企業の価値共創(CSV)を中心として～」というテーマのもと、大学3年生のチームによって、エシカル消費及び消費生活の隣接諸領域の概念理解を進めるとともに、実践に基づく事例研究を通じて、その実際にふれることを目的とした。

「エシカル消費」と企業行動との間には少なからぬ関係がある。エシカル消費を媒介項、ないし直接的な契機として、社会課題の解決を図ろうとする取り組みを、価値共創(CSV)あるいはSDGsの枠組みに位置づけながら普及・啓発活動につなげて、行動を「はじめて」いくことが、本事業の中核をなす部分となる。価値共創(CSV)は、「社会のニーズや問題に取り組むことで社会的価値を創造し、同時に、経済的価値が創造されるというアプローチ」であり、企業が本業の展開を通じながら、社会的問題解決と経済的利益を両立させ、相乗効果を創出する取り組みである。

こうしたテーマにチームで取り組む大学生がエシカル消費を学び、それらの実践の場(オンライン等を含む)に身をおき、活動を通して「自分事」の行動をはじめる契機を得ることは、教育面並びに当該学生たちが営んでゆく消費生活においても有益なものとなった。

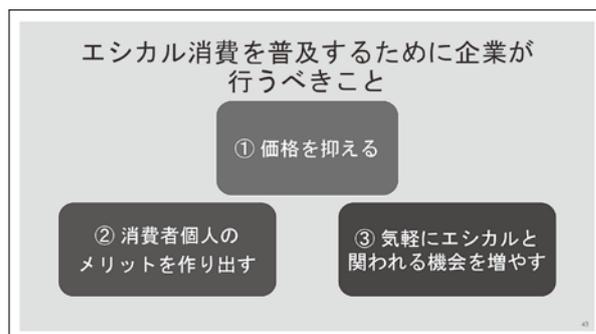
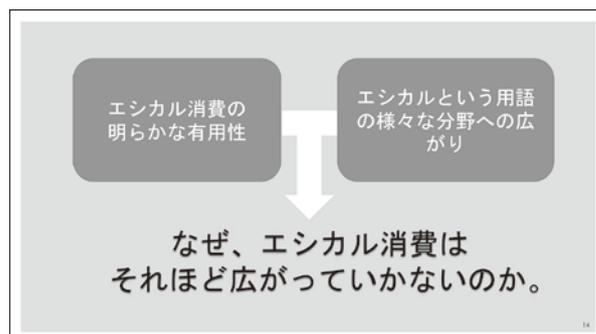
## 実施内容

### エシカル消費に係る事例研究

エシカル消費に係る取り組み及び企業事例の取材、研究をゼミ活動において実施した。3年次の演習では地域、産業、企業の取り組みを班ごとで調べ、その内容を発表し、資料及び報告書としてまとめた。これらの取材、学修成果については当初、学部研究発表大会での報告を通じ、広く学内

に展開を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う制約から形態変更を余儀なくされ、対面での発表・PRについて十分な活動ができなかった点が学生、教員とも心残りの部分である。

また、当該活動の一部については令和2年度の名古屋市消費生活フェアで発表を行った。なお、令和元年度に本事業に携わり、エシカル消費を学修・研究したゼミ生グループの一部が4年次の研究テーマとして、引き続き取り組んだことは、普及・浸透の面からも学修の面からも嬉しいことであった。





活動についての発表資料(抜粋)



啓発用パンフレット

## 専門実務家による講義(オンライン、映像含む)

エシカル消費の展開、取り組みへのアプローチとして、専門家による講演(オンライン及び映像を含む)を実施した。産・官・金・学の実務家を招聘し、地域をベースとした事業展開、新規の取り組みなど、SDGsや地域連携といった観点から話を伺い、学修、理解向上を図った。ご登壇いただいた実務家の専門領域は、ファッション、デザイン、フェアトレード、メディア、観光、金融機関、まちづくり、地域支援など多岐にわたり、取り組みの進展状況もそれぞれであったが、SDGsの観点、エシカル消費ないし取引の重要性について広く認識されていることが明らかになった。また、ゼミ担当教員の別担当科目において実施された講演(公正取引委員会中部事務所による講演)や資料を活用した学修、理解向上にも努めた。

## 学部授業科目・研究授業での展開

SDGsと地域企業経営のテーマにおいて、学部授業科目でエシカル消費を扱うとともに、演習内で学部研究授業を実施した。後者は、学生のみならず学部教員や学内教職員も参観等で携わるもので、講義編とワークショップ編の二本立てで展開された。会場に学修成果をパネル展示し、啓発用パンフレットをハンドアウトとして提供を図った。

講義編では、ゼミ活動で継続的に取り組んでいるエシカル消費調査、学修を盛り込んだ発表を行った。ワークショップ編では、ゼミ担当教員が認定ファシリテーター資格を有するカードゲーム「2030 SDGs」「SDGs de 地方創生」を用いたワークショップを行い、ゼミ所属学生を中心とした学年横断的な学修、理解浸透を図った。

## 成果・まとめ

新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、当初計画からの変更を余儀なくされた部分があったものの、前述の3つの事業を柱とした展開を実施することができた。これらの活動にゼミ生(2~4年生60名)を中心とした学生が取り組み、地域・企業の事例を学びながらエシカル消費に係る理解を深めるとともに、PRに努めることができた。

また、専門実務家による講演を通じて、ファッション、デザイン、フェアトレード、メディア、観光、金融機関、まちづくり、地域中間支援団体など多岐にわたる領域からご登壇を頂くことができた。それぞれの組織、個人による取り組みの進展状況は一様ではないが、SDGsの観点、倫理的消費ないし取引といった部分がビジネス上も重要ポイントであるとの認識が確認できた。これら専門実務家の現場、生の声に学生がふれることによる気づきや、専門実務家とのネットワークが新たに創出できたことも、今般の事業成果の1つといえるかもしれない。

なお、専門実務家による講演のうち、録音等の記録許可を得ることができたものについては、それらをデータ化したうえで、本事業にかかるゼミ活動の展開とあわせて、論文等のかたちで成果発表を行う予定である。

# 常備品、備蓄品を美味しく食べよう

愛知学泉大学 家政学部

家政学専攻2年生(森山 三千江教授)

## 事業の概要・目的

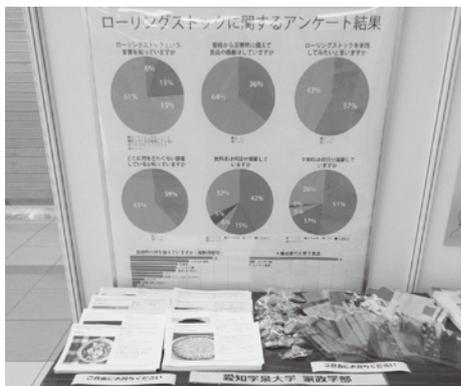
災害時や非日常時の生活になった時に備えて、日頃から食品を備蓄しておくローリングストックを呼びかける風潮が強まっている。ローリングストックとして多く購入されている食材を調査し、それらからどのような調理品を作る事ができるのか献立を考案した。その際に、エネルギー源として適量であること、栄養バランスが取れており不足する栄養素がないこと、更に、見た目の観点から嗜好的に好まれ、ストレスを感じている人が食することにより精神的な満足感を与えることができるような調理品を考案することを目的とした。家庭でのローリングストックの状況についてのポスターの展示、及び、考案・作成した調理品を撮影して制作したリーフレットの配布を行った。

## 実施内容

令和2年度の名古屋市消費生活フェアにおいて、以下の事業を行った。

### 調査結果等についてのパネルを出展

SDGsについての説明パネル及び家庭でのローリングストックに対する意識と実態調査についてのパネルを展示した。



名古屋市消費生活フェアでの展示の様子

### SDGsを知っていますか？

**SDGs (Sustainable Development Goals) とは…**  
持続可能な開発目標の総称。2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で持続可能な社会の実現を達成するために掲げた目標。17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

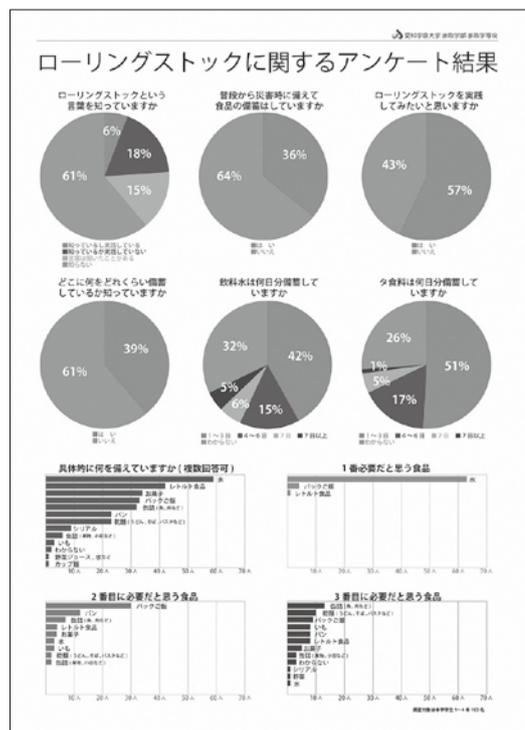
テクノロジーの発達により私たちの生活は便利で、世界的に見ても生活の質は高く、潤っているといえます。その一方で環境破壊・貧困・資源不足などの課題があり、このままでは近い将来今の生活は保障されません。これらを支える子どもたちのために、1人1人が積極的に取り組みることが求められます。今からでもできる取り組みの一つとしてローリングストックというのがあります。

**ローリングストックとは…**  
普段から少し多めに食材・加工品を購入しておき使用した分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法です。東日本大震災以降、注目されるようになり、不要不急の外出の自粛を要される今、再び注目されています。

**ローリングストックを実践してみよう…**  
食料やエネルギーの無駄をなくすことを心掛け、ゴール7と12の達成に貢献できます。環境省の発表では、4人家族1世帯で年間の約6万円相当の食品が家庭から捨てられています。取捨不舍にする、保存方法を工夫するなど日常生活を見直し、自分たちができる取り組み「ローリングストック」を実践してみませんか？

子供たちの未来のために  
できることを…

SDGsについての説明パネル



家庭でのローリングストックに対する意識と実態調査

## 考案した調理品のレシピを配布

ローリングストックでよく備蓄されている缶詰などを用いた調理品のレシピを来場者へ配布した。

ROLLING STOCK フルーツ缶

### フルーツロールケーキ



【材料】(ローリングストック)  
 卵黄 150g 3個分  
 グラニュー糖 20g  
 パンコ生クリーム 150g  
 卵白 150g 3個分  
 グラニュー糖 70g  
 塩 ひとつまみ

【作り方】  
 ① 卵黄に砂糖、グラニュー糖、パンコ生クリームを入れ、泡っぽくなるまでミキサーで泡立てる。  
 ベイクオフ。  
 ② 卵白に砂糖、塩を入れ泡立てる。  
 泡っぽく少し泡立ったグラニュー糖の卵白を加えたら泡立てる。  
 ③ ②が泡立ると卵黄の泡が少し出てきたら卵黄を加える。  
 卵黄の泡が少し出てきたら卵黄を加える。  
 ④ 卵黄の泡が少し出てきたら卵黄を加える。  
 ⑤ 卵黄の泡が少し出てきたら卵黄を加える。  
 ⑥ 卵黄の泡が少し出てきたら卵黄を加える。  
 ⑦ 卵黄の泡が少し出てきたら卵黄を加える。  
 ⑧ 卵黄の泡が少し出てきたら卵黄を加える。  
 ⑨ 卵黄の泡が少し出てきたら卵黄を加える。  
 ⑩ 卵黄の泡が少し出てきたら卵黄を加える。

ROLLING STOCK シチュールー

### シチュールーオムライス



【材料】(4人分)  
 玉ねぎ 1個  
 じゃがいも 1個  
 鶏もも肉 100g  
 有塩バター 大さじ2  
 塩 ひとつまみ  
 パセリ 適量

【作り方】  
 ① 玉ねぎのみじん切りにする。  
 ② 玉ねぎを1cm幅に切る。  
 ③ フライパンに1分ほど加熱し、バターを回したら、鶏肉と玉ねぎを炒める。  
 ④ 鶏肉の色が変わり、玉ねぎが透き通ったら、塩をふる。  
 ⑤ 中央で鶏肉を潰してしまえば、フライパンを逆回転させる。  
 ⑥ 中央で鶏肉を潰してしまえば、鶏肉が潰れてきたらじゃがいもと塩を炒め合わせる。全体に鶏肉の汁がまみれればよい。  
 (たまご)  
 ⑦ 1人分ずつ作る。ボウルに卵2個を割り入れ、白身と黄身を混ぜるまでしっかり混ぜる。  
 ⑧ 卵をフライパンに2分ほど加熱し、1分ほど焼く。  
 ⑨ 鶏肉と一緒に混ぜ、すぐにフライパンを逆回転させる。次の調理に中心だけを残して早く焼き上げる。  
 (仕上げ)  
 ⑩ フライパンに、最後に焼いた卵をのせる。  
 ⑪ 玉ねぎのみじん切りを、上からかける。

ROLLING STOCK 鶏肉類 鶏菜類

### 和風トコブ



【材料】(4人分)  
 じゃがいも 中2個 (200g)  
 こんにゃく 1巻 (200g)  
 人参 1本 (200g)  
 たまねぎ 1個 (200g)  
 ふたしめじ 1パック (100g)  
 ペーコン 100g (2パック)

【作り方】  
 ① 材料を切る。  
 ② じゃがいも、人参、こんにゃくは皮をむき、一口大の乱切りにする。  
 ③ 人参は皮をむき、一口大の乱切りにする。  
 ④ ふたしめじは根を切り落とし、ほろしておく。  
 ⑤ ペーコンは1cm幅に切る。  
 ⑥ 鶏ガラスープを中火で熱し、ペーコンを加え煮崩れがかりになるまで炒める。  
 ⑦ 玉ねぎを加え、しんなりするまで炒める。  
 ⑧ ⑥⑦の野菜を全て入れ、全体に火が通るまでしっかり炒める。  
 ⑨ じゃがいもが煮崩れやすくなるまで入れ、煮崩れさせない。  
 ⑩ ⑨を弱火にして、昆布茶を入れてさらに15分煮込む。  
 ⑪ 野菜の味が馴染んできたら、火を止めて煮込む。  
 ⑫ お好みでかいわれ大根や、お好みでゆずの皮をのせる。

ROLLING STOCK パスタ

### クリームパスタ



【材料】(4人分)  
 パスタ 100g  
 ほうろく肉 100g (80g)  
 玉ねぎ 1個 (200g)  
 有塩バター 15g  
 厚切りベーコン 大さじ1  
 牛乳 200cc

【作り方】  
 ① 材料を切る。  
 ② ほうろく肉を小さく、薄切りにする。  
 ③ 玉ねぎを1cm幅に切る。  
 ④ フライパンにバターを入れて熱し、玉ねぎを入れてしんなりするまで炒め、ほうろく肉を加え、さっと炒める。  
 ⑤ 厚切りベーコンを、焼かずにそのままの状態で炒め、ほうろく肉と玉ねぎと一緒に炒める。  
 ⑥ ⑤に玉ねぎのしんなりした状態で、コンソメ、塩、おしょう油を加えて炒める。  
 ⑦ ⑥に玉ねぎのしんなりした状態で、コンソメ、塩、おしょう油を加えて炒める。  
 ⑧ ⑦に玉ねぎのしんなりした状態で、コンソメ、塩、おしょう油を加えて炒める。  
 ⑨ ⑧に玉ねぎのしんなりした状態で、コンソメ、塩、おしょう油を加えて炒める。  
 ⑩ ⑨に玉ねぎのしんなりした状態で、コンソメ、塩、おしょう油を加えて炒める。

考案した調理品のレシピ(抜粋)

## 家庭で廃棄されるハギレを用いた小物を配布

家庭にあるハギレやボタンなど、廃棄されるような裁縫用の様々な材料を用いて、コースター、しおり、髪留めなどの小物を作成し、来場者へ配布した。



ハギレを用いた小物

## 家庭で廃棄されるハギレを用いたポスター作品を展覧

新型コロナウイルスの影響により、全国各地で例年開催されていた花火大会が中止となったことを受け、少しでも花火の楽しみを思い出してほしいという思いから、ポスターを作成した。



ハギレを用いたポスター作品「冬の花火大会」

## 成果・まとめ

調理品のレシピについては、学生達が考案した、ローリングストックで使用頻度の高い食材を用いた調理品の中でも、在宅時に目でも楽しめるものを選んでリーフレットとして配布した。

また、家庭にあるハギレやボタンなど、実際に衣服の作成には量的に不足し、廃棄されるような裁縫用の様々な材料を用いて、手にとって楽しめるような小物やアクセサリ、さらにポスター展示できる作品を作成した。

# 啓発教材の作成と教材使用に関するアンケート調査

金城学院大学 生活環境学部 生活マネジメント学科

丸山 千賀子ゼミ

## 事業の概要・目的

本研究室では、令和元年度、「SDGsにおけるエシカル消費を題材とした教材づくりと啓発活動」に取り組んだ。令和2年度は、前年度の成果を踏まえたうえで、企業や非営利組織の取り組みに関する現状のリサーチも加えながら、普及啓発活動に取り組んだ。

令和元年度は、エシカル消費とSDGsに関する基礎的な知識をまとめることに重点を置いた。令和2年度はそれを踏まえて、企業のみならず学校教育でも重視されている「SDGs」と関連付けながら、行政・企業・消費者における「エシカル消費」の取り組みを調べた。

行政・企業・消費者の活動について、教材(パンフレット)にまとめ、教材使用に関するアンケート調査を実施した。

令和2年度の名古屋市消費生活フェアでは、パンフレットを配布し、アンケート調査の結果をポスターにして掲示した。

## 実施内容

### 教材の作成

名古屋市消費生活フェアで啓発活動(パネル展示)を行うため、教材「みんなで取り組むエシカル消費—SDGsの視点から—」を作成した。

行政・企業・消費者の活動についてまとめた内容は、以下のとおりである。

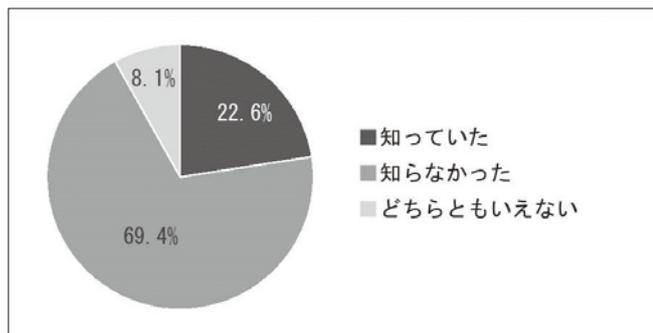
- ①エシカル消費とは
- ②SDGsを実現するエシカル消費
- ③エシカル消費と行政
- ④エシカル消費と企業
- ⑤エシカル消費と消費者



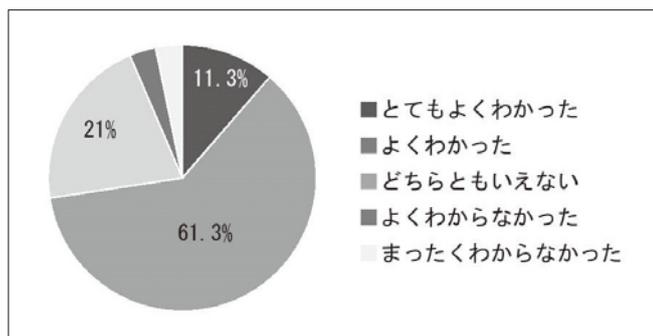
教材「みんなで取り組むエシカル消費—SDGsの視点から—」

### アンケート調査の実施

市立高等学校の在校生(2年生40名、3年生22名)を対象に、授業で教材を使用した後にウェブ上のアンケートフォームを用いてアンケート調査を行った。内容は、作成した教材を基に「エシカル消費やSDGsについて知っていましたか?」などの基礎知識6問と、パンフレットを読んで理解度を問う項目8問で構成している。実施期間は令和2年12月18日~25日である。



高校生へのアンケート調査結果  
「エシカル消費やSDGsについて知っていたか」



高校生へのアンケート調査結果「教材掲載の『SDGsを実現するエシカル消費』についてどれくらい理解と興味を持てたか」

## 啓発活動

令和2年度の名古屋市消費生活フェアにてブースを出展した。新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮し、一般消費者が各自学べるようSDGsとエシカル消費に関するポスター及び市立高等学校でのアンケート調査結果を掲示し、パンフレットを配布した。



名古屋市消費生活フェアでの展示の様子

## 成果・まとめ

### 学生の感想

#### ①教材作成について

説明なしでも理解してもらうためのパンフレット作りが求められた。作成するにあたって、分かりやすく伝えるためには、自らが深く理解している必要があり、どのように伝えるべきか言語化することの難しさを学んだ。

#### ②アンケート調査について

アンケート調査を通して、SDGsやエシカルに興味を持ってもらうとともに、回答者からは、さらに心がけて取り組みたいという肯定的な意見をもらうことができた。ウェブ上のアンケートフォームを使用し、スマートフォンで簡単に行えるようにすることで、コロナ禍でも回収効率や生徒が非接触で取り組めることなどを考慮した。その結果回収率100%を達成することができた。

#### ③名古屋市消費生活フェアにおけるパネル展示について

パネル展示会では、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、来場者と直接コミュニケーションをとることはできなかったが、各自パンフレットやポスター等を通して、SDGsやエシカル消費とはどのようなものなのか知ってもらうことができた。また、自ら教材を作成することで、学生もSDGsやエシカル消費について考える良いきっかけとなった。



令和2年度名古屋市消費生活フェアにて

教材制作担当代表：井上純奈(左端)

アンケート調査担当：二本松百華(左から2番目)

# 私が変わると世界が変わる～至学館エシカルプロジェクト～

至学館大学 健康科学部 栄養科学科

小塚 諭ゼミ

## 事業の概要・目的

消費者が、賢い食品選びのできる知識を身につけ“あたたかい地域コミュニティづくり”に積極的に関わっていくための「消費者市民力」を確保することができれば、食品企業は一般消費者を経営の中心に位置づけ、“消費者目線”に立った事業を推進せざるを得なくなり、消費者と食品企業がともに力を合わせた“持続可能な消費者市民社会づくり”が可能となる。

この事業では、将来を担う大学生が持続可能な社会の実現に向けて、自ら「エシカル消費」を日々の生活の中で実践するとともに、その活動を多くの子ども達や市民の方々に広めることにより、広い角度から消費者市民社会の形成を目指すことを目的とした。

## 実施内容

### 一般市民や本学の学生にエシカル消費やSDGs等の意識調査を実施

エシカル消費について、名古屋市消費生活フェアに参加した一般市民に意識調査をしたところ、全く知らない・よく知らないと答えた割合は60%であったが、大学生では80%と高かったことから、大学生など若者への普及啓発活動が重要であることが示唆された。



一般市民や学生のエシカル消費やSDGs等に対する意識調査結果

## 食品製造施設等を見学し、食品の安全やエシカル消費との関連を体験

- ①名古屋市中央卸売市場南部市場や名古屋市食肉衛生検査所にてと畜の様子やと畜検査のしくみを学び、安全な食肉がHACCP制度に基づいて供給されていることを理解した。
- ②独立行政法人協力機構JICA中部の国際協力拠点である「なごや地球ひろば」を見学し、SDGsの意味や目的について学習するとともに、ウガンダ給食を試食することにより、世界の子どもの食事情を実体験した。
- ③愛知県豊田市で昔ながらの伝統製法で豆味噌を製造している味噌工場を見学し、食育の大切さや伝統工法とエシカル消費の関連性等について学習した。



食肉衛生検査所長よりと畜場と食肉衛生検査所の説明を聞く



味噌工場にてこだわり味噌作りの説明を受ける

## 食品表示の仕組みを勉強し、「食品表示検定初級」を受験

一般社団法人食品表示検定協会が行っている「食品表示検定初級」に合格できるようゼミ活動の時間を使って食品表示の仕組みを勉強し、毎年11月に行われる試験を受験した。その結果、3年間で延べ30名の学生が合格した(合格率94%)。この試験を受けるために学んだ知識は、名古屋市消費生活フェア等での活動にいかされた。

## 名古屋市消費生活フェアに参加し体験成果を発表

### ①ブース発表「廃油を使ったエコ石けん作りに挑戦しよう」(令和元年度実施)

家庭からの廃油は年間約20万トンもある。消費者が、近年開発された誰でも安全で簡単に作ることができる廃油石けんを作り、それを家庭で使用することにより、エシカル消費が実践できることや、SDGsとの関連を分かりやすく伝えた。

### ②ステージ発表「日常に隠れているエシカル消費を見つけよう」(令和元年度実施)

人や社会・環境に配慮した消費行動を行うにはどのようなことをすればよいのかを、寸劇などを通して発表した。また、学生たちが考えたエシカル消費キャラクターのエシ君とカルちゃんを使用したクイズを行い、人に優しい買い物の大切さについて啓発した。



名古屋市消費生活フェアでのブース発表



名古屋市消費生活フェアでのステージ発表

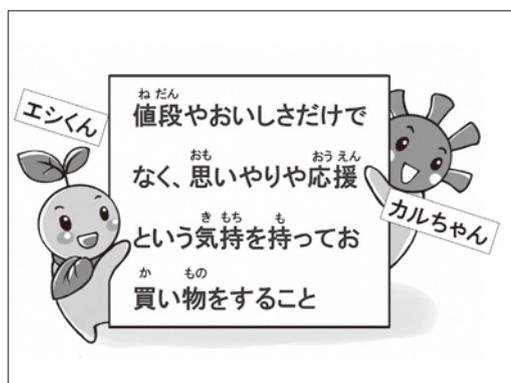
## 附属幼稚園にてエシカル消費授業を実施

### 「エシカル消費ってな～に?おいしいバナナの選びかた!」

附属幼稚園の年長組園児(30名×3クラス=90名)を対象に、エシカル消費授業を平成30～令和2年度にかけて実施した。授業では、本物のバナナの鉢植えを用意して栽培方法を説明したり、バナナの試食を行うことにより、買い物時には価格面だけでなく、エシカル消費を考えたり、レインフォレストアライアンスマークや有機JASマークの有無を見て選ぶよう説明した。



附属幼稚園でのエシカル消費授業



学生達が考案・デザインした「エシ君とカルちゃん」

## 成果・まとめ

本委託事業は、食品表示の知識を身につけ、消費者市民力の重要性を理解した学生が、名古屋市消費生活フェアや幼稚園児への授業などでの体験を通して、子ども達や一般市民の方々に食品選びの基本や、エシカル消費やSDGsの重要性を伝えることを学ぶ大変良い機会となった。今後、これらを体験した学生たちが、消費者市民社会における「賢い消費者市民」形成のためのリーダーとなって活躍してくれることを切に願っている。

# 若い感性とリアルな教材で共感と行動を導く

椋山女学園大学 現代マネジメント学部 現代マネジメント学科

東珠実ゼミ/SCR椋山女学園大学消費者問題リサーチャーズ

## 事業の概要・目的

### 目的

- ①学生たちがエシカル消費の意義及び対象と消費者市民社会、SDGs実現のための具体的行動について理解するとともに、環境、社会、地域のためにできることに主体的に取り組もうとする意欲を高める。
- ②エシカル消費や関連する消費者市民社会、SDGs等について学び、行動変容を始めた学生たちが、イベントや中学校での授業に参画し、消費者教育の担い手として積極的に活動する。

### 概要

- ①大人数講義において、エシカル消費、消費者市民社会、SDGsの理念や多数の関連商品を紹介し、受講生は身近なエシカル商品の調査を行う。
- ②ゼミ生（2年生）がエシカル消費をテーマに、名古屋市消費生活フェアでの出展を行う。
- ③ゼミ生（3年生）が併設中学校において、エシカル消費に関する家庭科の授業を行う。
- ④②、③に伴う教材を作成する。

## 実施内容

### エシカル消費を「自分ごと」化する講義

- ①1年次「生活経営論」：“循環型社会と2R”、“消費者市民社会とエシカル消費”等をテーマに、エシカル消費の基本的内容を理解し、今後の生活経営を取り巻く持続可能な社会の実現という時代の潮流について関心を高めた。
- ②2年次「消費者行動論A・B」：“消費者志向経営とエシカル消費”、“ブランド構築と統合型マーケティングコミュニケーション”等をテーマ

に、エシカル消費を支える企業の消費者志向経営について理解を深めた。また、エシカルを経営理念に掲げる、通学路にあるショッピングモールの開発担当者による講義を通して、エシカル消費への共感と愛着を高めた。さらにエシカル商品を調査し、購入・消費して報告するレポートに取り組んだ。

- ③3年次「消費者問題論」：“環境に配慮した消費生活”をテーマに、消費者問題と環境問題の関係性について理解した。また、消費者の力で環境問題を改善する取組として、商品の購入のみならずライフスタイル（エコライフ）も含めたエシカル消費の推進について、総括した。

### 名古屋市消費生活フェアでの大学生による啓発 (1)エシカルマーケット

平成30～令和元年度の名古屋市消費生活フェアでは、「エシカルマーケット」をテーマに、ブースを身近なエシカル商品があふれるマーケットに見立て、商品を紹介した。来場者には、買いたい商品に投票してもらったり、これまでに買ったことのある商品を付箋に書いて掲示板に貼りつけてもらうなど、エシカル消費を身近な買い物と結び付けて楽しんでもらえるよう工夫した。併せて、学生たちが作成したエシカル消費を推進するリー



さまざまなこだわりの商品が並ぶエシカルマーケット

フレットを配付したり、平成30年度には、PR動画を制作しステージで発表した。

## (2)エシカルFACE

令和2年度の消費生活フェアは、コロナ禍のなかで、制作した啓発ツールの展示のみとなった。学生たちの関心は、コロナ禍の生活の象徴ともいえるマスクでエシカルを伝えることにあり、「エシカルマスク(地産地消、障害者支援)+エシカルコスメ(オーガニック、生産者支援)+エシカルジュエリー(フェアトレード)」でつくる「エシカルFACE」を若い感性でリアルに再現した。当日は、マスクの飛沫防止効果にも配慮し、マネキンが、布製のエシカルマスクと不織布マスクを重ね付けするという工夫もみられた。

## 中学校での大学生によるエシカル消費の授業

平成30～令和元年度には、併設中学校において1年生全クラスを対象に、家庭科の一部としてエシカル消費に関する授業を実施した。単元は「身近な消費生活と環境」、本時は「商品の選択と情報」とし、中学校教諭との打合せの下、学習指導案やワークシート、教材等を準備して授業に臨んだ。

ここでは、エシカル消費について独立した学習内容とするのではなく、前後の授業との連続性を



実物教材やWeb教材を活用した授業



身近なエシカル商品を紹介するリーフレット



学生たちのアイデアが詰まったエシカルFACE

前提として、無理なく組み込むことに配慮した。授業では、商品の選択基準として、教科書に掲げられている「好み、価格、品質・安全性・機能、保証・アフ

ターサービス、環境への影響」を踏まえて、「体育祭で着用するクラスTシャツを選ぶ」というテーマを設定し、多様な視点で商品を選択するこ



大学生がグループワークをサポート

と、選択基準の1つにエシカル消費という視点を加えることについてグループワークを通して考えさせた。また、教材として、東京都消費生活総合センターが制作したウェブサイト教材「カートくんの買い物なびげ〜しょん」の一部を活用した。

令和2年度は、コロナ感染防止の観点から中学校での対面授業が困難であった。そこで、動画「女子大生のエシカルな1日」をヒントにエシカル消費について具体的に紹介するパワーポイント教材を作成し、中学校に提供した。



リアルな動画でエシカル消費を伝える教材

## 成果・まとめ

3年間の事業を通じて、「大学生が担い手になるという特徴を活かした」エシカル消費の普及啓発活動に取り組んできた。それを可能にするためには、まずは担い手となる大学生がエシカル消費に関する基礎的知識を身に付け、「自分ごと」化し、普及啓発への意欲や使命感をもつことが重要である。また、従来の啓発の担い手とは異なる独自の感性とテーマへの柔軟な思考を活かし、リアルで身近な教材を開発・活用し、共感と行動を導くことが肝要である。エシカル消費は、学生たちがつくる未来のスタンダードである。

# 「エシカル消費」啓発のためのゼミ活動

中京大学 法学部 法律学科

杉島 由美子ゼミ

## 事業の概要・目的

本研究室は、平成30～令和2年度の3年間、ゼミ生(3年生)がゼミ活動を通して「エシカル消費」について理解を深めるとともに、「エシカル消費」普及のための啓発活動に貢献することを目的として、本委託事業に参加した。

実施した啓発活動は、以下の通りである。

- ①附属高等学校との「高大連携学部授業」でのグループ・ディスカッション
- ②名古屋市消費生活フェアへの参加
- ③「エシカル消費」啓発のためのパンフレット作成

## 実施内容

### 附属高等学校との「高大連携学部授業」でのグループ・ディスカッション

平成30年度及び令和元年度には、本学と附属高等学校との間で実施されている「高大連携学部授業」において、高等学校の生徒に対して、大学生とともに「エシカル消費」を考えるという授業を行った。この授業の中で、「エシカル消費」に関する資料の中から高校生が関心を持ったテーマを挙げてもらうとともに、「エシカル消費」について自分はどのような取り組みができているか等についてグループ・ディスカッションを行った。受講した高校生には3つのグループに分かれてもらい、ゼミ生が進行役を務めた。ディスカッション終了後、話し合った結果を高校生から発表してもらった。

### 名古屋市消費生活フェアへの参加

平成30年度及び令和元年度においては、オアシス21で開催された名古屋市消費生活フェアに参加した。本イベントにおいては、ゼミ生が取り組んだテーマについて、ブースを訪れる来場者に理解してもらえるように工夫しながら模造紙を用

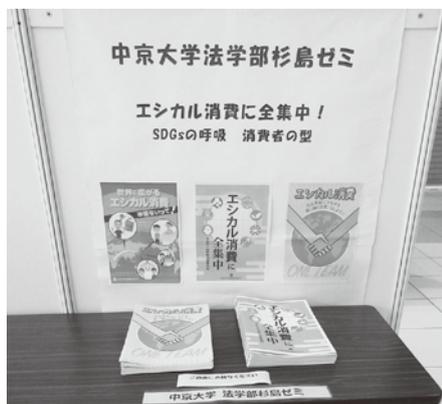
いた展示を行うとともに、展示内容と連動したクイズを行った。令和2年度においては、消費生活フェアがオンライン展示会及びパネル展示会の形式で開催されたため、パンフレットを作成し、パネル展示会において来場者に配布した。

この3年間でゼミ生が取り組んだテーマは、下記の通りである。

- 平成31年度：エシカル消費（フェアトレードを含む）、シェアリングエコノミー、食品ロス、応援消費、フリマアプリ
- 令和元年度：プラスチックごみ問題、インターネット取引、エシカルファッション、エシカルジュエリー
- 令和2年度：エシカル消費と地球温暖化、グリーン購入、シェアリングエコノミー、インターネット取引、フリマアプリ、地産地消、食品ロス



名古屋市消費生活フェアにてブース出展



パネル展示会にてパンフレットを配布

## 「エシカル消費」啓発のためのパンフレット作成

平成30年度及び令和元年度は、消費生活フェアに参加した後、ゼミでの報告、意見交換を踏まえてパンフレットを作成した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大のためゼミ活動をオンラインで実施したが、学内の教育システムを利用した報告、意見交換を通してパンフレットを完成させることができた。



平成31年度パンフレット



令和元年度パンフレット



令和2年度パンフレット

## 成果・まとめ

本事業への参加を通して、ゼミ生は、「エシカル消費」について理解を深めるとともに、次のような成果を挙げることができた。

まず、附属高等学校の生徒とのグループ・ディスカッションでは、高校生が「エシカル消費」につながる行動を日頃からとっていることがわかった。参加したゼミ生は、高校生とのやり取りを通して自身の「エシカル消費」についての理解を深めることができたように思う。

次に、消費生活フェアへのブース出展を行った平成31年度及び令和元年度は、来場者に展示内容やクイズの解答等について説明することを通して、ゼミ生が様々な年齢層の人と交流する機会を得ることができた。このような活動を通して、ゼミ生は、「エシカル消費」に関する自らの知識や理解をさらに深め、高めていくことができたのではないかと考える。また、ここでの経験は、その後のパンフレットづくりに活かすこともできた。なお、令和2年度は、オンライン展示会及びパネル展示会の形で開催された消費生活フェアに参加し、オンライン授業という制約の中で作成したパンフレットを展示会において発表することができた。

最後に、パンフレット作成においては、読み手にいかに分かりやすく伝えるかを考えながら内容を検討するとともに、パンフレット完成という目標に向かって仲間と意見交換を重ねながら協力することで、ゼミ生は貴重な経験を積むことができ、また、多くのことを学ぶことができたように思う。

「エシカル消費」については、この言葉を初めて聞くゼミ生も多かったものの、本事業に参加することを通して理解を深めることができ、また、自らの消費行動を考えるきっかけにすることもできたように思う。さらに、啓発活動に参画することを通して、実践的な力も身につけることができたのではないかと考える。

# 学生主体の標準化教育

中部大学 経営情報学部 経営総合学科

伊藤 佳世ゼミ／中部大学ESDエコマネーチーム

## 事業の概要・目的

### SDGs+スマート技術+標準化

SDGsを実現するためには、持続可能な生産・消費というライフスタイルへの移行や人材育成が重要課題である。本事業では国際標準化※とSDGs・スマート社会に焦点をあて、標準化教材を開発するとともに中高大連携やSDGs関連イベントでの教材実演（標準化教室）を通じて、若者の意識改革や市民の意識や行動の変化を促すことを目的としている。

※標準とはルールを指す。標準化はルールを作ること。国際標準化団体としてISO(国際標準化機構)等がある。

## 実施内容

### 1. 標準を作る

#### 1.1 標準化教材開発

平成30年から令和2年にかけて5種類の標準化教材を開発した。

- ①SDGsと超スマート社会の国際標準を学べる教材「世界を救え」(教材1)
- ②持続可能な調達 (ISO20400) やエシカル消費について学習する教材「世界を変えるには」(教材2)
- ③食品安全マネジメントの国際規格(ISO22000)とSDGsを学ぶ教材「食プロ」(教材3)
- ④リスクマネジメントの国際規格 (ISO31000)とSDGsを学ぶ教材「まもる君」(教材4)
- ⑤事業継続マネジメントの国際規格(ISO22301)とSDGs、気候変動、災害、感染症の対策を学ぶ教材「会社を守ろうwith コロナ」(教材5)



教材1



教材2



教材3



教材4



教材5

### 1.2 専門家連携

教材の妥当性を担保するため専門家と連携を行い、コメントを反映している。連携先は以下のとおりである。

経済産業省：教材1～5に対して標準化と関連技術等の見解を反映した。

日本規格協会：教材1～5に対して標準化に関する見解を反映した。

公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会：教材2、3、5に対して消費者志向に関する見解を反映した。

東海農政局：教材3に対して食品管理に関する見解を反映した。

製品評価技術基盤機構：教材4に対して製品の品質・リコール問題の見解を反映した。

消費者庁：教材4に対して情報交換を行った。

中央労働災害防止協会：教材5に対して労働安に関する見解を反映した。

## 2. 標準を教える

### 2.1 中高大連携

#### ①授業での連携

附属中学校：教材1～5を用いて平成30～令和元年度は対面で、令和2年度はオンラインで標準化教室を実施した。大学4年生が標準化教室を行い、学習結果をもとに中学生が2週間準備し、文化祭で来場者向けに標準化教室を実施した。標準化教材の実演、壁新聞やタブレット端末を活用した資料や動画の作成とプレゼン、新規図記号の提案を行い、エシカル消費やSDGs、標準化の学びを深めることができた。

市内私立高等学校：教材1、3、5を用いて平成30～令和元年度は対面で、令和2年度はオンラインで、地理の授業として事前学習と組み合わせながら標準化教室を実施した。

#### ②SDGs実践者対象

県立高等学校：教材1、3を用いて平成30～令和元年度に対面形式で、地域活性化に貢献する部活動の生徒を対象に、標準化教室を実施した。

市内私立高等学校：教材1を用いて令和元年度に対面形式で、SDGsに基づき活動するグループの生徒を対象に標準化教室を実施した。

市内私立高等学校：教材1を用いて平成30～令和元年度に対面形式で一般の生徒及びボランティア活動を行うクラブの生徒を対象に標準化教室を実施した。

環境マネジメント全国学生大会（大学生対象）：平成30～令和2年の大会で教材1～5を用いて学生主体の標準化教育の発表を行った。

### 2.2 イベントでの標準化教室

平成30年度は教材1、2を用いた標準化教室を名古屋市消費生活フェアとエコプロで実施した。来場者は前者が233人、後者が4,805人であった。令和元年度は教材3、4を用いた標準化教室を名古屋市消費生活フェアとエコプロで実施した。来場者は前者が1,520人、後者が6,096人であった。令和2年度は教材5を用いた標準化教室を名古屋市消費生活フェア（パネル展示会及びオンライン展示会）とエコライフフェアで実施した。来場者

は前者のうちパネル展示会が1,500人、後者が3,053人であった。

事前にファシリテーター教育を行うとともに、来場者向けの普及啓発パンフレットを作成した。対面イベントではブース内でポスターの展示と教材の実演を行った。パネル展示会及びオンライン展示会ではポスター、パンフレットに加え、普及啓発動画を作成した。



名古屋市消費生活フェア



エコプロ



エコライフフェア

## 成果・まとめ

### 3年間の活動を通じて

3年間、開発した教材を用いて、これからの社会を担う人々や一般消費者に対して標準化教育を行った。エシカル消費を含む持続可能な社会のために必要な情報を啓発するという活動に大きく貢献することができた。特に令和2年度は新型コロナウイルスの影響で従来と同じような普及活動ができない状況にあったが、この状況であるからこそ必要な情報を教材に取り込み、継続してこの活動を進めた。また、この活動を通じて、チームメンバー自ら、標準・エシカル消費について理解を深め、個人でこれらを説明し啓発する力を身に付けた。

原案作成：浅井洸太郎、石地亮輔、池谷龍迪、塚本美空

監修：伊藤佳世

# エコホテルを事例としたエシカル消費の研究と啓発

名古屋経済大学 経済学部

学生研究室 地域政策チーム(佐藤 正之教授)

## 事業の概要・目的

経済学部学生研究室地域政策チームでは、地域活性化や地域の問題に関する様々なテーマに取り組んでいる。これまでにクレジットカードや大学生の食生活、防災など自分たちに身近な事例を扱ってきたが、今回は環境に配慮したホテル「エコホテル」をテーマとし、令和元年度と令和2年度に事業を実施した。学生主体で「エシカル消費」を調べる中でたどりついた研究テーマでもあり、2年間継続して取り組んだ。

まず、エシカルに関する様々な研究テーマ案を出す中で「エコホテル」を対象としたのは、あまり知られていない、日本では一般的では無いという疑問から、宿泊施設のエシカルな側面に関する実態や事例の調査・研究を行うことで、その現状を把握し普及啓発に取り組む可能性があると考えたからである。

## 実施内容

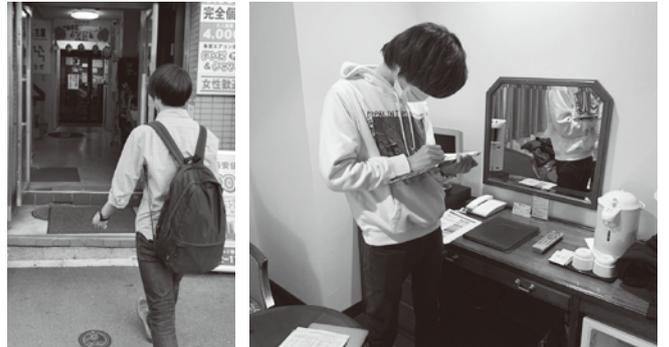
### エコホテルの事例研究

令和元年度は、身近な宿泊施設の事例を調べながら、エシカル消費の研究と啓発として、以下の事業内容を実施した。

- ①エコホテルの環境配慮、省エネといった認定条件や基準・ポイント制など条件の確認
- ②全国のエコホテル及び関連組織等の情報収集
- ③エコホテル宿泊の価値や利点
- ④先進地である欧州と日本との比較
- ⑤エシカル消費の意識向上の課題

### クイズ実施や解説冊子配布

- ①エコホテルそのものを知ってもらうことを目的の第一段階としたクイズを制作、実施
- ②エコホテルを体感できるツール作成
- ③普及啓発パンフレット配布



宿泊施設事例調査の様子

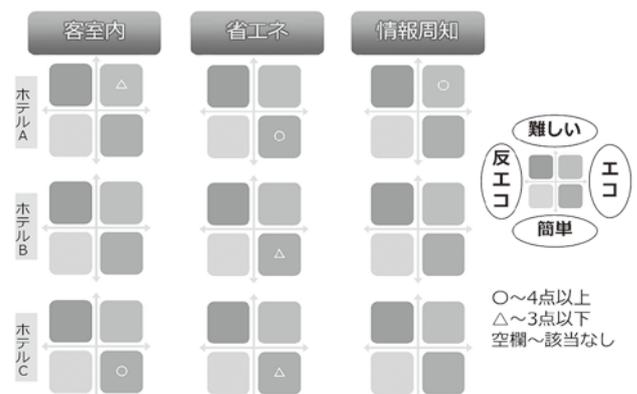
## エコホテルと一般のホテル比較

### ①消費者が認識しやすいエコ活動

エコホテルの取り組みと、自分たちが考えているエコと差異があった点、ホテルの調査結果から実際に行われていたエコ活動はサービス低下を懸念していたため、消費者がエコホテルを意識しにくかった点が明らかになった。そこで消費者目線

比重を置いている分野	日本のエコホテル (15軒)	ドイツのエコホテルリア	スイスのエコホテルクリヴァ
分類1: PR	○		
分類2: 施設運営		○	○
分類3: 省エネ			○
分類4: 排出抑制			○

エコホテルの比較



ホテルのエコ度合いを模式化

でのエコホテルづくりの可能性について、検討をはじめた。まずは消費者として認識しやすいエコ活動を確認することと、一般的なホテルの調査により、エコ化の方向性を検討することとした。

## ②ホテルの特性にあわせたエコ化の可能性調査

消費者にとってホテル利用の目的は様々で、サービスの質を求める人もいれば、泊まればいいという人もいることから、民泊やビジネスホテルなどの宿泊施設での、エコ活動に取り組む可能性を調査した。調査は、一般的なホテルとエコホテルの比較を考え、エコ活動を難易度別に三段階に分けたエコチェックリストを作成し、それぞれのホテルがどのレベルまでエコ活動に取り組んでいるかを模式化した。

## 成果・まとめ

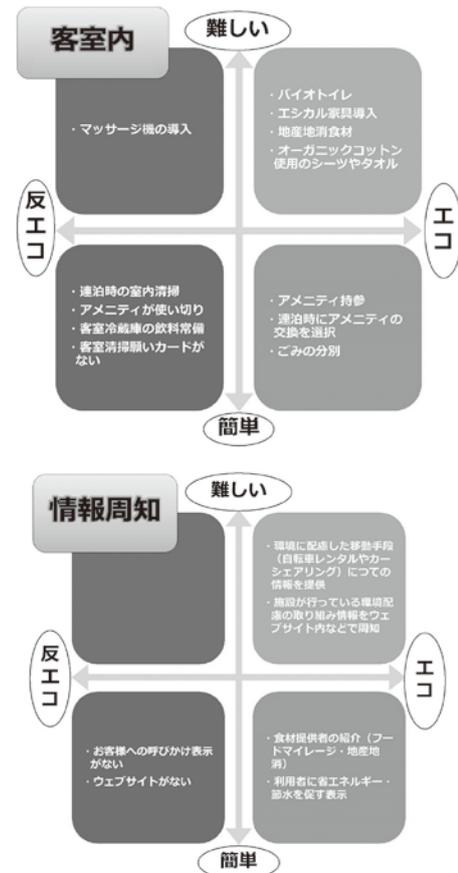
### エコホテル調査とクイズ実施のまとめ

日本のエコホテルは、ウェブサイト等での発信や、省エネ・節水を促すメッセージをホテル内に設置するなど、エコに関するPRを行っているホテルが多いのが現状である。それに対し、北欧のホテルでは環境に配慮した製品の客室設置や食品廃棄物を減らす取り組みを行うなど、施設を運営する上でのエコ活動に重点をおいているといえる。日本のエコホテルのどこがエコであるかクイズを制作・実施したが、正解率が低かったため、エコ化がわかりにくいのではと考え、エコ化のレベル分けをして、エコ化の難易度を探ることになった。

### 宿泊施設のエコ化の可能性

まず、作成したエコチェックリストで一般的なホテルとエコホテルを比較したところ、一般的なホテルでは、ほとんど実施されていない「情報周知」に取り組めば比較的容易にエコ化が可能な項目がある点、すでにエコ化に対応している項目もある「客室内」でもエコ化に気づきにくい点、「省エネ」は活動の可視化が難しい点、などが確認できた。エコ化の視点から導入の効果が目につきやすいのは、例えばペレットストーブやエシカル家具などだが、エコでも導入コストが高いものは、観光地など付加価値の高い宿泊施設以外では導入が進みにくいと考えられる。一方で節水機器の導

入など、比較的安価なエコ活動から開始するのは、民泊やビジネスホテルが取り組みやすいエコ活動といえる。またフードマイレージ、地産地消などの食材提供者の紹介や、利用者に省エネを促す表示といった情報周知も、ナッジ手法を用いやすいと考えられ、エシカル消費につながりそうだ。さらに、環境に配慮した移動手段（自転車レンタル、カーシェアリング）の情報提供などへ、レベルを上げていく可能性も考えられる。



調査結果をエコ化難易度別に分類

### 今後の課題

以上のようなエコ活動は、消費者が意識しやすく、自分たちが「普段の生活」にも取り入れられるという視点に注目したい。今後の課題としては、この視点から宿泊施設のエコ化について、反エコの縮小、エコの進まない部分の可能性、またエコ化レベルのフローチャートを検討するなど、エコホテルの研究に取り組み、エシカル消費の普及啓発につなげていきたい。

事業実施：加納大地、徳竹晨光、下田龍、池本貴俊、清水珠良、村瀬健太、横地政宏、五味稔就

# エシカル教材の開発とエシカル消費の啓発実践

名古屋女子大学 家政学部 家政経済学科  
消費者教育ゼミ(三宅 元子教授)

## 事業の概要・目的

本事業の目的は、大学生がエシカル消費の知識を深め、学校・地域社会へ効果的な普及啓発を図ることであり、到達目標を①～③に設定した。

- ①エシカル消費の目的や仕組み、配慮の対象について理解し、思いやりの気持ちをもつ「考える消費」ができるようになる。
- ②学んだ知識や技術をいかし、持続可能な社会の構築を目指したエシカル消費行動について学校や地域社会へわかりやすく説明し普及できる。
- ③教材等の作成を通じて地域社会と積極的にコミュニケーションをとり、エシカル消費活動を推進できる。

## 実施内容

### 中学校での啓発活動

市立中学校において、令和元・2年度に「フェアトレードチョコレートからエシカル消費を考える」・「一人ひとりができるエシカル消費を考えてみよう」をテーマに継続して授業を実践した。

1年目は、2年次に身近な生活の中で取り組むことのできるエシカル消費行動について考える授業を行った。2年目は3年次に新しく開発したオリジナル「エシかるた」を使って、前年度の知識を応用して持続可能な社会の構築に向けた行動目標を考え発表し合う授業を行った。



中学校での授業(左:令和元年度 右:令和2年度)



作成したオリジナル「エシかるた」の取り札(令和2年度)

### 高等学校での啓発活動

平成30～令和2年度の3年間、県内の高等学校二校で実践した。

一方の高等学校では、2年生を対象にテーマを「フェアトレードチョコレートからエシカル消費を考えよう」とし、カカオがチョコレートとして消費者に届くまでの流通経路や価格の変動、経済の動きを学習する授業を行った。ここでは、特に児童労働等の社会問題について意見を出し合い、これらの解消のために自分たちができるエシカル消費行動をグループで考案し発表した。

他方の高等学校では、3年生を対象に「地産地消はエシカル消費?」、「エシカル消費に役立つ認証ラベルとマーク」、「SDGs達成のための企業活動提案」の各テーマで協働授業(実践発表会の講評を含む)を行った。日常生活の中で気づいた課題をとりあげ、消費の持つ力、社会への影響、エシカル消費を普及するための方策を生徒と共に考え、提案し、企業や地域へ発信した。



高等学校での授業実践(左:平成30年度 右:令和元年度)

## 地域への普及・啓発活動

平成30・令和元年度の名古屋市消費生活フェアにおいて、「意外と知らないエシカル消費で社会貢献」をテーマに、フェアトレード商品等の展示やクイズをし啓発した。

令和2年度の同イベントでは、わたしたち一人ひとりができる身近な社会貢献について具体的な事例を提示し展示した。コロナ禍により、対面での説明はできなかったものの、オリジナルパンフレットを配付し、子どもから大人までの幅広い年齢層向けの動画も作成し、Web配信した。



地域への啓発活動(左上から:平成30年度、令和元年度、令和2年度(パネル展示会)、令和2年度(Web配信動画))

## 実践活動の振り返り学習会

実践活動の中で行ったアンケートを分析し、学内で学習会を開いた。「自作の啓発パンフレットを積極的に活用して地域の方々の意識を高めていくこ



振り返り学習会

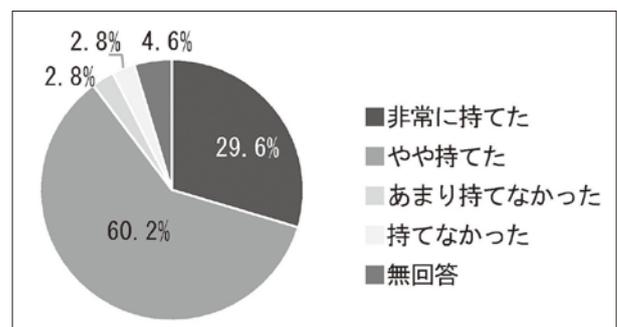
とが必要]、「環境問題への関心が高いので展示内容は詳しく説明すべき」、「動物福祉への意識が低いので展示内容にも加える」などの意見が出された。

## 成果・まとめ

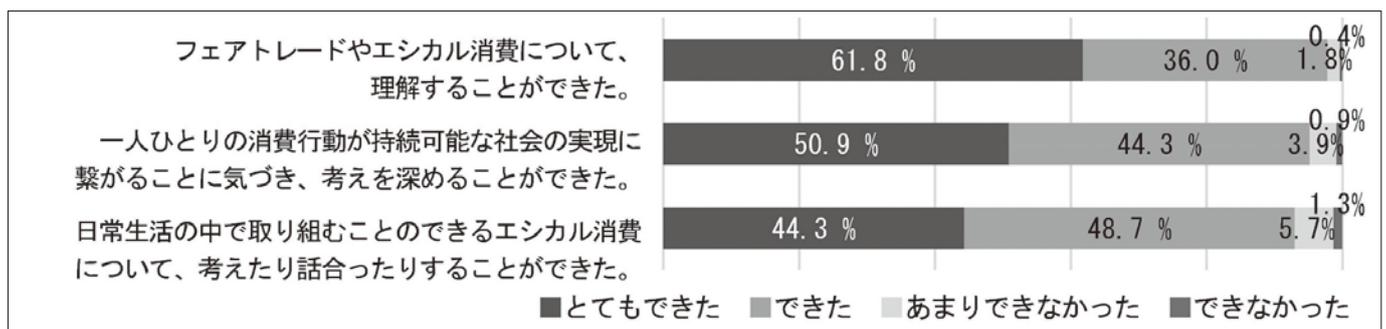
本事業は、大学生にとって、授業だけでは経験できない貴重な学びの場となった。啓発活動の結果、市民のエシカル消費への関心度の向上、中学生のエシカル消費行動への意欲の向上等の成果が得られた(下グラフ参照)ことにより、学生自らも持続可能な社会の構築を目指す一員としての意識が高まり、行動にも変化が見られた。特に、発信力やコミュニケーション力が高まり、実践活動後の振り返り学習会において、自ら積極的に自分の意見を発言できるようになった。また、実践活動の回数が多くなるに従って、臨機応変な対処方法も身に付けた。

知識の獲得については、啓発パンフレットや「エシカル」の作成で高い効果がみられた。書籍やインターネットで調べたり、団体や個人にインタビューしたりする調査の過程で、エシカル消費がSDGsに繋がる行動であることや経済への影響が大きいことを学習することができた。

さらに、学生たちは、引き続きエシカル消費の啓発活動に参加したいと意欲的な取り組みを始めた。到達目標は概ね達成でき、本事業への参加は、学内では得られにくい能力の獲得にも大いに貢献できたといえる。



エシカル消費に対する関心度(令和元年度名古屋消費生活フェアでのアンケート調査結果)



授業内容に関する中学生の自己評価(令和元年度)

# デポジロウの冒険-プラスチック容器のデポジット制提案

名古屋市立大学 人文社会学部 現代社会学科

伊藤 恭彦ゼミ

## 事業の概要・目的

海洋プラスチックなどのプラスチックごみによる被害は深刻であり、世界で毎年3億トンを超える量が排出され、そのほとんどはリサイクルされることなく地球にダメージを与え続けている。そのようなプラスチックごみ問題の現状について学び考えることで、問題解決に向けた様々な活動を行っている。

## 実施内容

### 借りの哲学

「プラスチックは地球から借りている資源である」と捉えることができればごみになる量は減はずだとし、モノの利用についての概念を変えることを目指す、我々の活動の根拠になっている考え方である。

### デポジット制度

デポジット制度という言葉聞いたことがあるだろうか。地球からの資源を「借りたら返す」の実践として注目されている仕組みで、ペットボトルなどのプラスチック製品に保証金(デポジット)をつけて販売し、返却するとデポジットが返却されるというものである。欧米諸国をはじめ、国内でも一部で導入されているこの仕組みを、日本で普及させることはプラごみ削減に有効な手段だと考えている。

## 脱プラスチック商品の提案

代替品の使用は、プラスチックの廃棄量を減らすために有効な手段の一つ。右ページにて、セルロース由来の不織布を使用したマスクとミツロウを布にしみこませて作るミツロウラップを紹介する。

## 成果・まとめ

プラスチックごみ問題について深く学び、危機意識を持つと共に、解決方法について正義論を専攻するゼミの特徴を生かし、世代間正義とグローバル正義という二つの根拠に基づいて考えた。

「所有から利用へ」という意識の根本的な変革がプラスチックごみ問題の解決には必要であり、その実現のための方法の一つとして代替材料を用いた製品の提案やデポジット制度の紹介をした。

次年度以降も引き続き活動を行い、市内で実際にデポジット制度の実証実験を行い、普及させ、そして将来的には名古屋市のエシカル消費先進都市化を目指している。



デポジット制度についてのパンフレット

# 手作りミツロウラップ

## \*用意するもの

- ・布の端切れ
- ・アイロン
- ・ミツロウ
- ・ワッキング
- ・オリーブオイル
- ・ペーパー
- ・霧吹き
- ・アイロン台

## ～作り方～

1. アイロン台の上にワッキングペーパー、布の端切れをセッティング



2. 霧吹きで布にオリーブオイルを吹きつける

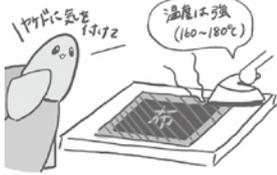


全体に均しくまんべんなく  
(霧吹きがない時はティッシュやキッチンペーパーに  
オイルを染み込ませて布に染み込ませてください!)

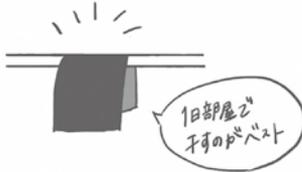
3. 布の上にまんべんなくミツロウをのせる



4. 布の上にワッキングシートをのせ、その上からアイロンをかける



5. よく冷まして完成!!



実際に制作した手作りミツロウラップ

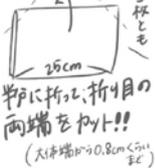
手作りミツロウラップの作り方

# 『セルロース不織布マスク』

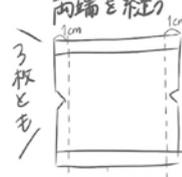
1. 布を切る

縦 21cm x 25cm 1枚  
横 19cm x 25cm 2枚  
(糸縫いではできず、  
ミシンで縫うか、  
早く縫う)

2. 布の幅を調整



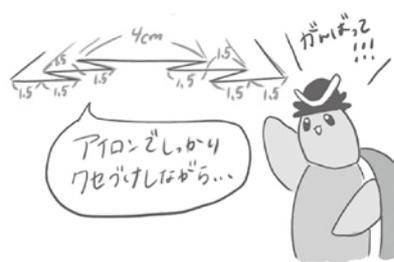
3. 布の真ん中を合わせて両端を縫う



4. 筒状になる布をひっくり返す



5. ヒタをつくる

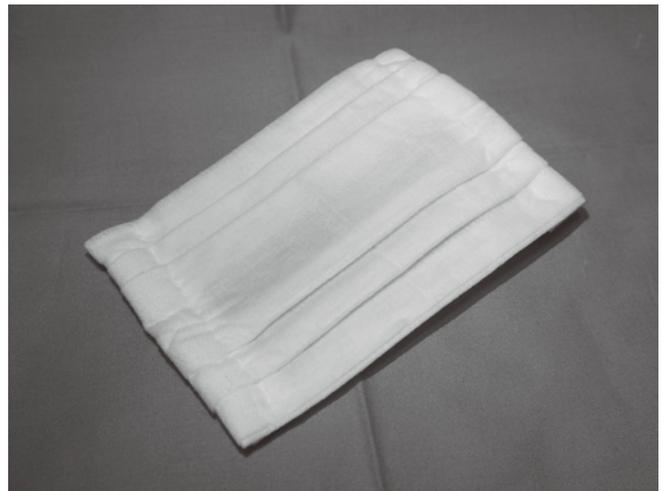


6. 端を三つ折りして縫う!



## ポイント!!

- ・糸が重なった部分をクリップで留めながら縫う!! (アチ針200OKで縫う、留めにくい時は)
- ・糸縫いではなるべく小さく縫うとキレイに仕上がります (糸縫いの場合)



実際に制作したセルロース不織布マスク

セルロース不織布マスクの作り方

## 【巻末資料】SDGsについて

### ●SDGsとは

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

### ●SDGsの構造

17のゴールは、①貧困や飢餓、教育など未だに解決を見ない社会面の開発アジェンダ、②エネルギーや資源の有効活用、働き方の改善、不平等の解消などすべての国が持続可能な形で経済成長を目指す経済アジェンダ、そして③地球環境や気候変動など地球規模で取り組むべき環境アジェンダといった世界が直面する課題を網羅的に示しています。SDGsは、これら社会、経済、環境の3側面から捉えることのできる17のゴールを、統合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことを目標としています。

### ●SDGs達成に向けて

2019年9月に開催された「SDGサミット」で、グテーレス国連事務総長は、「取組は進展したが、達成状況には偏りや遅れがあり、あるべき姿からはほど遠く、今、取組を拡大・加速しなければならない。2030年までをSDGs達成に向けた『行動の10年』とする必要がある」とSDGsの進捗に危機感を表明しました。

2020年、新型コロナウイルス感染症が瞬く間に地球規模で拡大したことから明らかなように、グローバル化が進んだ現代においては、国境を越えて影響を及ぼす課題に、より一層、国際社会が団結して取り組む必要があります。

SDGs達成に向けた道のりは決して明るいものではありません。だからこそ、「行動の10年」に突入した今、私たち一人ひとりにできることをしっかりと考え、一歩踏み出す姿勢が求められています。

### ●名古屋市はSDGs未来都市

名古屋市は、令和元年7月1日、内閣府よりSDGs(持続可能な開発目標)達成に向けた取組を先導的に進めていく自治体「SDGs未来都市」に選定されました。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 主なステークホルダーの役割

### ビジネス

持続的な企業成長、ESG投資、中小企業、ビジネスと人権 等

### ファイナンス

公的資金と民間資金の有効な活用・動員、ESG金融、TCFD 等

### 市民社会

「誰一人取り残されない」社会の実現に向け、政府との橋渡し役として、国内外への発信、政府提言 等

### 消費者

消費者や市民の主体的取組を推進

### 新しい公共

地域の課題解決に向け、地域住民やNPO等がSDGsに貢献

### 労働組合

社会対話の担い手としてディーセント・ワークの実現や持続可能な経済社会の構築に貢献

### 次世代

持続可能な社会の創り手として幅広い分野について提言・発信

### 教育機関

地域や世界の諸課題の課題解決を図る人材育成、ESD推進 等

### 研究機関

研究や科学技術イノベーションのSDGs達成に果たす役割を認識し、科学的根拠に基づき取組推進

### 地方自治体

SDGs達成に向けた取組加速化、各地域の多様な優良事例の発信

### 議会

国民の声を拾い上げ国や地方自治体の政策に反映、社会課題解決のための具体的な政策オプションの提案

## 目標12「つくる責任 つかう責任」

倫理的消費(エシカル消費)はSDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」の達成に資する取組みです。

12 つくる責任  
つかう責任



### 世界の主な目標

- 廃棄物を減らすため、持続可能な方法で生産し、消費する形態も確保します。
- つくる人もつかう人も、全員が意識して、自然と調和した生活を送るようにします。

出典：「SDGsってなに?」(名古屋市総務局企画部企画課)

「持続可能な開発目標(SDGs)と日本の取組」(外務省) ([https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs\\_pamphlet.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf)) 及び「基礎資料:SDGsの概要及び達成に向けた日本の取組」(外務省) ([https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/sdgs\\_gaiyou\\_202009.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/sdgs_gaiyou_202009.pdf)) をもとに名古屋市作成

**大学による倫理的消費(エシカル消費)普及啓発事業事例集**

令和3年3月発行

名古屋市スポーツ市民局消費生活課

電話:052-222-9679

FAX:052-222-9678